

乳幼児健診体制等あり方検討特別委員会

目 次

「乳幼児健診体制等あり方検討特別委員会」報告書

- I. 緒 言
- II. 調 査 方 法
- III. 結 果 と 考 察
- IV. ま と め

乳幼児健診体制等あり方検討特別委員会

(平成 24 年度)

「乳幼児健診体制等あり方検討特別委員会」報告書

広島県地域保健対策協議会 乳幼児健診体制等あり方検討特別委員会

委員長 小林 正夫

I. 緒 言

平成 21・22 年度に地対協に設置された「乳幼児健診体制あり方検討専門委員会」において、発達障害児の早期発見の視点を取り入れた乳幼児健診マニュアル（平成 20 年広島県作成）の検証および保護者への相談状況などの実態把握を行った。その結果、乳幼児健診などで要事後指導となった子どもとその保護者に対する関係機関の連携による支援体制など、今後の改善の必要性が認められたところである。また、市町における現行の乳幼児健診体制は 3 歳児健診を最終としているが、集団生活を経験して初めて臨床的特徴が顕在化してくる ADHD（注意欠陥多動性障害）などの早期発見・支援を行うために、3 歳児健診以後の発達障害児の早期発見・支援体制のあり方についても検討する必要がある。そこで、これらの課題および対応策などについて協議・検討を行った。

II. 調査方法

- 1 調査の目的 乳幼児健診において発達面の要事後指導となった子どもや、保育所（園）・幼稚園において発達面で気になる子どもに対する各関係機関の連携した支援の状況、および 3 歳児健診以後の発達面で支援が必要な子どもを把握・支援するための取組状況について実態を把握し、乳幼児期における発達障害児の早期発見・支援体制のあり方を検討する上での資料とする。
- 2 調査の対象 広島県内の市町母子保健主管課 (23)、保育所（園）(630)、幼稚園 (295)
- 3 調査期間 平成 24 年 7 月 1 日（日）～7 月 31 日（火） 1 ヶ月間

- 4 調査項目 別紙「調査票」のとおり。なお、関係者への啓発の機会として「気になる子どもの具体的な例示」および「乳幼児健診において確認すべき発達面の項目」について記載したリーフレットを作成し、調査票に併せて送付した。

表 1 調査票の送付および回収状況

区 分	調査票送付数	回収数	回収率
市町母子保健主管課	23	23	100.0%
保育所（園）	630	452	71.7%
幼稚園	295	196	66.4%
計	948	671	70.8%

III. 結果と考察

1 保育所（園）、幼稚園における気になる子どもの状況について

ア 在籍乳幼児数に対する気になる子どもの割合
在籍乳幼児数に対する気になる子どもの割合は、保育所（園）では 14.7% で、年齢が上がるに従って増加する傾向がみられた。幼稚園では 6.9% で、年齢ごとの大きな差はなかった。また、平成 21 年度に実施した「乳幼児健診体制あり方検討専門委員会」による調査結果（保育所 8.1%、幼稚園 2.2%）と比

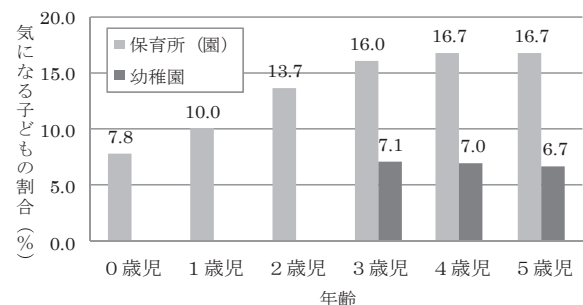


図 1 年齢別に見た気になる子どもの割合

較すると、保育所（園）で6.6ポイント増加（1.8倍）、幼稚園で4.7ポイント増加（3.1倍）していた。気になる子どもが増加している背景には、研修の実施などにより保育士や幼稚園教諭の子どもの発達に関する知識、意識の向上が図られてきたこともあると考えられる。

イ 園の規模ごとの気になる子どもの割合

保育所（園）、幼稚園ともに、気になる子どもの割合は、「1～50人規模」の園が最も多く、園児数が多くなるに従って減る傾向にあった。その要因として、少人数の園の方が一人一人の園児に目が行き届きやすいため子どもの発達の見極めがしやすい、子どもの発達を心配する保護者が少人数の園を選んで入園させる傾向があるといったことなどが考えられる。

2 保育所（園）、幼稚園における関係機関との連携状況について

ア 関係機関と連携して支援した子どもの有無

「関係機関と連携して支援した子どもがいる」と回

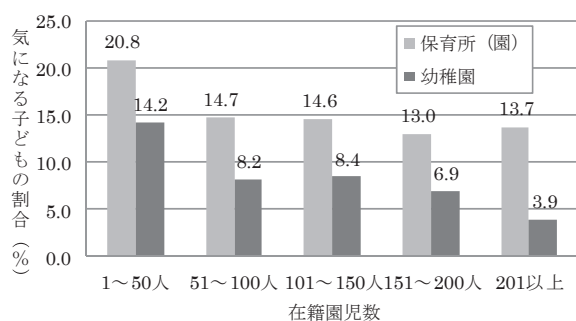


図2 園の規模別に見た気になる子どもの割合

答した園は、保育所（園）、幼稚園合わせて85.0%であった。連携しなかった理由としては、「気になる子どもがいなかったため」や、「園内のみで支援ができたため」が保育所（園）、幼稚園いずれにおいても4割程度を占めていた。

イ 連携先および連携内容

保育所（園）の連携先は、「市町・保健所の保健師」（79.3%）や「専門療育機関」（72.4%）が多かった。幼稚園では、「専門療育機関」（61.4%）が最も多かった。保育所（園）において、市町・保健所の保健師との連携が多い理由としては、乳幼児健診を受診する年齢の子どもが在籍しているため、健診事後措置での連携が取りやすいということが考えられる。

連携内容として最も多かったのは、「子どもの園での様子についての情報提供」で、さまざまな関係機関に対し情報提供を行っていた。「子どもへの関わり方についての相談」は、発達障害者支援センターや専門療育機関に対して、「保護者の支援についての相談」は、市町の家庭相談員やこども家庭センター（児童相談所）に対して、「子どもの発達状況についての見立て」については、市町・保健所の保健師、こども家庭センター（児童相談所）、発達障害者支援センター、専門療育機関、特別支援学校に対して、「診断や治療・療育についての相談」は、専門療育機関やかかりつけ医に対して行っていた。

なお、特別支援学校では、発達障害に関するセンターの機能として各校に専任の教育相談主任を配置

表2 連携先ごとの連携内容（保育所（園））

連携内容	ア 市町・保健所の保健師	イ 市町の家庭相談員	ウ こども家庭センター（児童相談所）	エ 発達障害者支援センター	オ 専門療育機関	カ 特別支援学校	キ かかりつけ医	ク 園医
	(n=322)	(n=128)	(n=182)	(n=132)	(n=294)	(n=50)	(n=81)	(n=136)
子どもへの関わり方についての相談	○	○	○	◎	◎	○	○	△
保護者への支援についての相談	○	◎	◎	○	○	○	○	○
子どもの園での様子についての情報提供	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
子どもの発達状況についての見立て	◎	○	○	◎	◎	○	○	○
子どもの処遇についての相談	○	○	○	○	○	○	△	△
診断や治療・療育についての相談	○	△	○	○	◎	○	◎	○
福祉サービス利用についての相談	○	○	△	△	△	△	△	—

表3 連携先ごとの連携内容（幼稚園）

連携内容	ア 市町・保健所の保健師	イ 市町の家庭相談員	ウ こども家庭センター（児童相談所）	エ 発達障害者支援センター	オ 専門療育機関	カ 特別支援学校	キ かかりつけ医	ク 園医
	(n=48)	(n=11)	(n=34)	(n=48)	(n=89)	(n=18)	(n=19)	(n=29)
子どもへの関わり方についての相談	○	○	○	◎	◎	◎	○	○
保護者への支援についての相談	○	◎	◎	○	○	◎	○	○
子どもの園での様子についての情報提供	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
子どもの発達状況についての見立て	◎	○	◎	○	◎	◎	○	○
子どもの処遇についての相談	△	○	○	○	○	○	○	△
診断や治療・療育についての相談	○	○	○	○	○	○	◎	○
福祉サービス利用についての相談	○	○	○	△	△	△	△	△

※ 連携先ごとに、どのような内容の連携を行ったかを示したもの。
 連携内容として多かったものから、50%以上を◎、10~49%を○、10%未満を△、0%を-で示している。

表4 就学に際しての教育委員会や小学校との連携

区分	保育園（園）		幼稚園		合計	
	園数	割合（%）	園数	割合（%）	園数	割合（%）
している	407	90.0	190	96.9	597	92.1
していない	28	6.2	3	1.5	31	4.8
無回答・無効回答	17	3.8	3	1.5	20	3.1
計	452	100.0	196	99.9	648	100.0

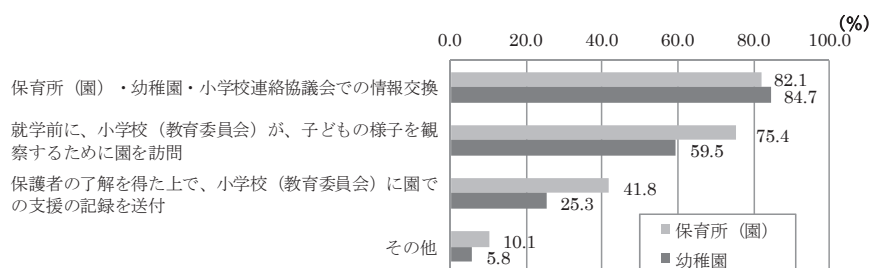


図3 教育委員会や小学校との連携方法

し保育現場への助言を行っており、その積極的な活用が望まれる。

ウ 就学に際しての教育委員会や小学校との連携

9割以上の園が、就学に際して、教育委員会や小学校と連携していた。

連携方法は、「保育所（園）・幼稚園・小学校連絡協議会での情報交換」、「就学前に、小学校（教育委員会）が、子どもの様子を観察するために園を訪問」が多かった。

エ 関係機関との連携のために必要なこと

関係機関との連携をしやすいするために必要なこととしては、「日頃から連絡・相談しやすい関係づくり」が約7割で最も多かった。平成21年度調査においても、発達障害の早期発見・早期対応に必要なこととして、「気軽に相談できる機関の充実」（約7割）が最も多かったことから、他機関との連絡・相談しやすい関係づくりについての課題は継続していると考えられる。関係機関同士が日頃から連絡・相談しやすい関係をつくるための一方法として、研修会を

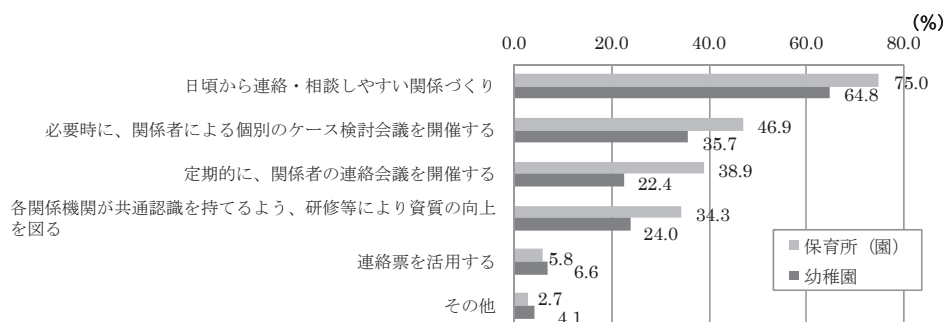


図4 どのようなことがあれば関係機関との連携がしやすくなるか

活用し、職種を超えて関係者が集まり、事例検討などを通して情報交換や交流を行う場を定期的に設けることも有効ではないかと考えられる。

また、「各関係機関が共通認識を持てるよう研修などにより資質の向上を図る」ことについては、今回調査、平成21年度調査ともに3割程度あることから、より効果的な実施方法などについて検討していく必要がある。

オ 関係機関との連携において困難に感じていること
関係機関との連携において困難に感じていることとして最も多かったのは、「保護者の理解や協力が得にくい」といった、保護者支援の難しさに関することであった。平成21年度調査においても「保護者支援の難しさ」は自由記載欄に最も多く上がっていた。

次いで多かったのは、「専門機関の予約が取りにくい、相談の日程が合わない」ことであった。一方、「専門機関が近くにない」といった距離的な問題に関する記述は少なかった。

また、「関係機関と児に対する共通認識が持ちにくい、相談しても適切な助言が得られない」といった関係機関に対する不満や、「関係機関との関係が希薄で相談しにくい、連携方法が分からない」という意

見があった。

カ 気になる子どもを支援するために取り組んでいること

気になる子どもを支援するために取り組んでいることとして、「行政や関係団体が実施する発達障害に関する研修会への職員の参加」、「気になる子どもの支援についてお互いに相談しやすい職場環境づくり」、「園内の職員のみでのケース検討会議の開催」、「発達障害に関する園内での研修会の開催」など、主に園内で行う取組は、実施している園が多かった。

一方、「専門療育機関への子どもの処遇などについての指導・助言の要請」、「子どもの発達面の評価を定期的実施」、「専門的な研修を受けた職員（発達支援コーディネーターなど）の配置」、「外部の職員を交えての園内でのケース検討会議の開催」、「発達障害の視点を取り入れた健康診断の実施」など、他機関の協力が必要な取組は、実施している園が少なかった。今後、これらの取組の充実を図るためには、①専門療育機関による巡回相談の充実や福祉サービス（保育所など訪問支援）の活用、②園での定期健診の機会を利用して発達面の評価を行うためのツール（発達のチェックシートなど）の開発、③専門的

表5 気になる子どもへの支援に関する関係機関との連携において困難に感じていること

園数	1 問題なし。良好な関係である。	2 専門機関の予約が取りにくい。相談の日程が合わない。	3 専門機関が近くにない。	4 保護者の理解や協力が得にくい。	5 関係機関との関係が希薄で相談しにくい。連携方法が分からない。	6 関係機関と、児に対する共通認識が持ちにくい。相談しても適切な助言が得られない。	7 園の職員配置が少なく、十分なかわりが難しい。	8 小学校との連携が難しい。	9 その他
648 (100.0%)	434 (67.0%)	44 (6.8%)	7 (1.1%)	102 (15.7%)	35 (5.4%)	43 (6.6%)	13 (2.0%)	11 (1.7%)	14 (2.2%)

※ 複数回答を含むため、1～9の各分類の園数の合計は、回答園数とは一致しない。

割合(%)は、回答園数に対する割合を示している。

自由記載欄に記入が無かった園については、「1 問題なし、良好な関係である」に分類した。

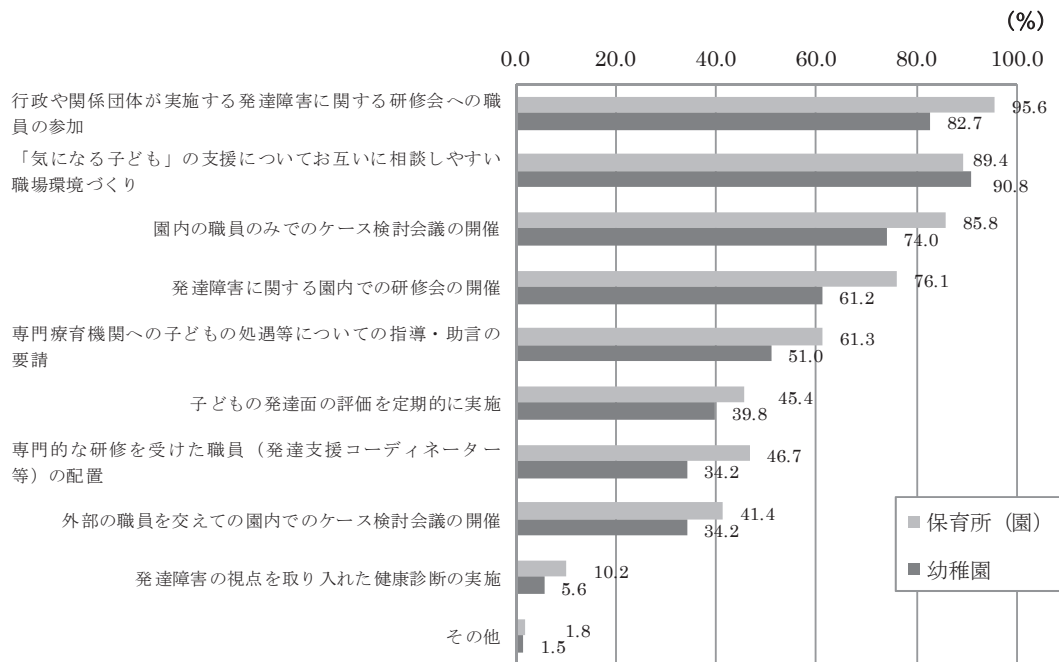


図5 気になる子どもを支援するために取り組んでいること

な研修を受けた職員（コーディネーター）の養成、④地域の「子どもの心の相談医」や「発達障害の診療を行っている医療機関」の協力による園での発達面の評価やケース検討会議の実施、⑤保育士、幼稚園教諭の育成（演習や専門機関での実習など実践的な研修）のしくみづくりなど、具体的な方策を幅広い視点から検討していく必要がある。

3 市町における3歳児健診以後の取組について

ア 市町における乳幼児健診受診状況および要事後指導割合

市町ごとの乳幼児健診要事後指導割合をみると1歳6ヵ月健診では0%から60.8%，3歳児健診では0%から73.4%と、市町間のばらつきが大きかった。事後指導の要否判断について県内で統一的な基準を作る必要がある。

イ 関係機関との連携の有無

「関係機関と連携して支援した子どもがいる」と回答した市町は、23市町中21市町であった。

一方、「連携して支援した子どもがいない」と回答した市町は2市町であり、その理由は、「発達面で支援が必要な子どもがいなかったため」、「市町保健師および担当課の専門相談で対応できたため」が、それぞれ1市町であった。

ウ 連携先および連携方法

連携先として最も多かったのは、保育所（園）で21市町であった。次いで、専門療育機関20市町、

幼稚園16市町、かかりつけ医13市町、市町の家家庭相談員、こども家庭センター（児童相談所）がそれぞれ12市町、発達障害者支援センター、特別支援学校がそれぞれ4市町、園医2市町であった。

連携方法は、「随時、担当者間での連絡」が21市町で最も多かった。次いで、「必要時の個別のケース会議」が18市町、「巡回相談で相談」、「関係者による定期的な連絡会議」がいずれも10市町であった。

エ 関係機関との連携のために必要なこと

関係機関との連携をやすくするためには、「日頃から連絡・相談しやすい関係づくり」が必要であると回答した市町が多く、保育所（園）、幼稚園と同様の結果であった。

オ 関係機関との連携において困難に感じていること

「保護者の理解や協力が得にくい」、「関係機関との共通認識が持ちにくい、相談しても適切な助言が得られない」がそれぞれ5市町、「専門機関が近くにない、相談の日程が取りにくい」が3市町、「関係機関との関係が希薄で相談しにくい、連携方法が分からない」が1市町であった。

「保護者の理解や協力が得にくい」ことは、保育所（園）、幼稚園、市町いずれにおいても困難に感じていることとして最も多かった。保護者の理解や協力を得るためには、保護者への伝え方など支援者の援助技術の向上を図るとともに、ITを活用した具体的でわかりやすい情報発信など、保護者が情報を得や

すくするための工夫が必要である。

カ 3歳児健診以後の取組について

5歳児健診を実施している市町はなく、4・5歳児を対象に発達相談を実施しているのが7市町（検討中2市を含む）であった。

5歳児発達相談の周知方法については、保育所（園）、幼稚園を通じて案内を行っているのが3市町、個別案内を行っているのが2市町であった。実施形態は、心理職や保健師などによる希望者のみの個別相談を行っているのが4市町で、そのうち尾道市は、医師も従事している。海田町は、フォロー教室と併せて実施している。また、江田島市は、対象者全員に集団での健康相談を行っており、心理職、保健師、栄養士、歯科衛生士、母子保健推進員などが従事している。

キ 5歳児発達相談利用者数・事後措置状況

広島市は同様の発達相談を実施している他市町と比べ、利用者数が少ない。

園を通して相談の申込を行う、発達相談の際に園

の担任が同席するなど、園との協力体制がとれている市町は、相談利用者数が多い傾向が見られた。また、5歳児発達相談の要事後措置割合は、市町によってばらつきがあった。

ク 5歳児発達相談の課題

各市町から以下のような課題の提示があった。

- ・集団での様子が見られないため、適切な判断が難しい。
- ・問題意識の高い保護者しか利用しない。
- ・対象児が利用しやすいよう、夏休みの時期に開催しているが利用者が少ない。
- ・療育機関の受け皿がない。
- ・児が在籍する園、専門療育機関と教育委員会・学校との連携が取れていない。
- ・発達相談に担任が同席するための時間の確保が難しい。
- ・保健センターと保育所（園）・幼稚園との児に対する共通認識が持ちにくい。
- ・5歳児発達相談の効果の検証（小学校入学後の

表6 3歳児健診以後に、発達面で支援が必要な子どもを把握するための健診や相談事業の実施状況

区分	実施市町数 (うち検討中)	内訳
5歳児健診を実施	0 (0)	—
5歳児発達相談 [*] を実施	7 (2)	広島市、江田島市、尾道市、神石高原町 海田町、(安芸高田市、庄原市)

※4・5歳児を対象とした相談を、5歳児発達相談に分類した。

なお、「就学時健診における工夫」についても回答した市町があったが、今回は母子保健主管課宛に調査票を送付したため、就学時健診に関する全体的な把握が不十分であったことから、集計から除いた。

表7 5歳児発達相談の実施状況

市町名	周知方法	申込先	実施形態	実施場所	従事者
広島市	保育所（園）、幼稚園を通じて案内	保健センター	個別相談 (希望者のみ)	保健センター	心理相談員、保健師、保育士
尾道市		保育所（園） 幼稚園			医師、保健師、心理士 発達支援嘱託員 など ※園の担任も同席する
神石高原町				幼児通園施設協議会スタッフ (教育委員会主催) ※園の担任も同席する	
海田町	個別案内（3歳児健診などで発達面のフォローを行っていた4・5歳児）	保健センター	個別相談（希望者のみ、フォロー教室と併せて実施）	保健センター	保健師、心理士
江田島市	個別案内（対象となる5歳児全員）	(申込不要)	集団で健康相談	保健センター	発達相談員、保健師 栄養士、歯科衛生士 母子保健推進員 事務

表8 5歳児発達相談の利用者数、事後措置の状況

市町名	対象者数* (人)	利用者数 (人)	対象者数に 対する割合 (%)	要事後 措置数 (人)	事後措置 割合 (%)	事後措置の内容(人)					
						医療機関 紹介	専門療育 機関紹介	保健師に よる経過 観察	事後指導 教室での 経過観察	園での経 過観察	担当課の 専門相談
広島市	11,108	107	1.0%	48	44.9%	0	19	23	0	6	0
尾道市	1,091	87	8.0%	74	85.1%	3	18	19	0	0	34
神石高原町	64	19	29.7%	19	100.0%	0	0	0	4	15	0
海田町	84	13	15.5%	9	69.2%	0	2	0	3	1	3
江田島市	141	128	90.8%	54	42.2%	0	2	0	0	44	8

※対象者数

広島市：H24.3月末現在5歳児人口、尾道市：H18.4.2～H19.4.1生まれ児童数

神石高原町：平成24年度小学校入学児童数、海田町：H23年度案内数、江田島市：H23年度通知数

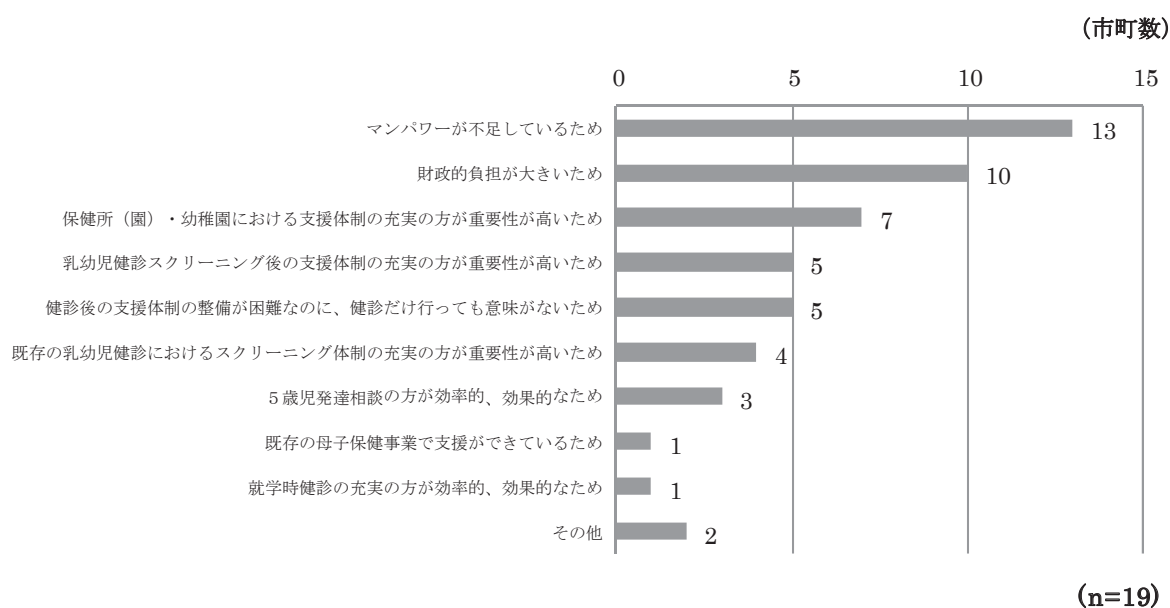


図6 5歳児健診について「実施予定なし」とした理由（複数回答）

経過や見逃し例など）が必要。

ケ 5歳児健診の実施予定

「5歳児健診実施予定あり」の市町はなく、「実施予定なし」の理由としては、「マンパワーが不足しているため」が13市町、「財政的負担が大きい」が10市町であった。また「保育所（園）・幼稚園における支援体制の充実の方が重要性が高いため」が7市町であった。

コ 先進的な取組事例

① 5歳児発達記録（スクリーニング）

<三原市>

就学までに時間のある4歳児クラスの在籍児を対象に、保育士・幼稚園教諭と保護者が、子どもの健康と発達を共通の視点から見直すことによって、育児や保育を充実させ、スムーズな就学へと結びつけ

るため、「5歳児発達問診票」を用いたスクリーニングを実施している。

② 就学时アンケート<海田町>

就学前に保護者と支援者が子どもの持つ特性について理解し、就学後の支援につなげることを目的として、就学时健診の場を活用し、就学时アンケートにより子どもと保護者の面接相談を実施している。

IV. ま と め

乳幼児健診などで要事後指導となった子どもとその保護者に対する関係機関の連携による支援体制および3歳児健診以後の発達障害児の早期発見・支援体制のあり方などについて検討を行った。

1 保育所（園）、幼稚園、市町における気になる子どもの状況

保育所（園）、幼稚園の在籍乳幼児数に対する気になる子どもの割合は、保育所（園）では14.7%、幼稚園では6.9%で、平成21年度調査と比較すると、保育所（園）で6.6ポイント（1.8倍）、幼稚園で4.7ポイント（3.1倍）増加していた。また、小規模園において気になる子どもの割合が多く、園児数が多くなるに従ってその割合が減る傾向にあった。

市町における乳幼児健診の要事後指導割合は、0～6・7割まで市町間のばらつきが大きかった。事後指導の要否判断について県内の統一的な基準を作ることが必要である。

2 関係機関との連携による支援

「関係機関と連携して支援した子どもがいる」園は、保育所（園）、幼稚園全体で85.0%であり、就学に際しては、9割以上の園が教育委員会や小学校と連携していた。また、市町においては、23市町中21市町が関係機関との連携による支援を行っていた。

関係機関との連携における課題としては、平成21年度調査と同様に、「日頃から連絡・相談しやすい関係づくり」や「各関係機関が共通認識を持てるよう研修などにより資質の向上を図ること」、「保護者支援の難しさ」が、高い割合を占めていた。

今後は、研修会を活用した関係機関同士の情報交換や交流の促進、保育士、幼稚園教諭に対する実践的な研修の実施による援助技術の向上、ITの活用による保護者への情報提供の充実など、幅広い視点から具体策を検討していく必要がある。また、支援の充実を図るうえで「子どもの心の相談医」や発達障害の診療を行っている医療機関の協力が重要であると考えられるが、医療機関が都市部に集中しているといった課題がある。

3 3歳児健診以後の発達障害児の早期発見・支援体制

5歳児健診は、マンパワーの不足や財政的負担が大きかった理由により、実施している市町はなかった。5歳児発達相談を実施しているのは23市町中7市町（検討中2市を含む）であり、園との協力体制がとれている市町は、相談利用者が多い傾向が見られた。要事後措置割合については、市町によってばらつきがあった。

今回の調査により市町の取組内容に差があることが確認できたが、地域の社会資源の状況（別表を参照）や人口規模などが市町によって異なることを考慮し、今後は、二次保健医療圏や管轄保健所など一定の地域単位で、その地域の実情に応じた支援体制のあり方について検討していく必要があると考える。

別表

子どもの発達の支援に関する関係機関の配置状況

数字は箇所数を示している。

二次保健医療圏	市町	保健所 (保健センター)	家庭相談員 (家庭児童相談室)	こども家庭センター(児童相談所)	発達障害者 支援センター	専門療育機関	特別支援学校 ※3	「子どもの心の相談医」が いる医療機関 ※4	発達障害の 診療を行っている医療 機関 ※5
広島 (8市町)	広島市	9 ※1	8	2 ※2	1	3	5	25	30
	府中町	1						1	1
	海田町	2	1						
	熊野町	1	1					1	1
	坂町	1	1(兼務)						
	安芸高田市	1	1						
	安芸太田町	1	1						
	北広島町	4							1
	小計	20	12	2	1	3	5	27	33
広島西 (2市)	大竹市	1	1				1	1	1
	廿日市市	6	1				1	3	7
	小計	7	2	0	0	0	2	4	8
呉 (2市)	呉市	3	2				3	6	2
	江田島市	3	1				1	1	
	小計	6	3	0	0	0	4	7	2
広島中央 (3市町)	東広島市	6	1		1	1	3	3	5
	竹原市	1	1						
	大崎上島町	1	1				1		
	小計	8	3	0	1	1	4	3	5
尾三 (3市町)	三原市	4	2				1	3	3
	尾道市	5	2				2	2	2
	世羅町	1							
	小計	10	4	0	0	0	3	5	5
福山・府中 (3市町)	福山市	7	1	1		2	3	5	9
	府中市	2	1						
	神石高原町	1	1						
	小計	10	3	1	0	2	3	5	9
備北 (2市)	三次市	9	1	1					2
	庄原市	7	1				1		1
	小計	16	2	1	0	0	1	0	3
合計	77	29	4	2	6	22	51	65	

※1 県西部保健所広島支所を含む

※2 県西部こども家庭センターを含む

※3 広島県の特別支援学校では、地域における特別支援教育のセンターとして、特別支援教育等に関する相談・情報提供、障害のある幼児児童生徒への指導・支援等を行うセンター的機能を実施している。

(広島県教育委員会ホームページから抜粋)

※4 日本小児科医学会では、平成10年より「子どもの心の相談医」制度を設け、子どもの心の問題に乳児期から取り組み、家庭から学校、そして社会へと心身ともに健全に育成するための方策を検討、構築し、必要な相談助言指導の知識と実践力を身につけた小児科医を育成し、その研修単位を取った小児科医を「子どもの心の相談医」として認定している。

子どもの心の相談医に相談される病気：神経性食思不振症、学習障害、不登校、心身症、注意欠陥多動障害その他の心の問題による病気

(広島県小児科医学会のホームページから抜粋)

※5 県内の小児科、内科、精神科など発達障害の診療を行っていると考えられる医療機関を対象にアンケート調査を実施し、発達障害の診断あるいは療育などを行っているという回答があり、かつ公表の承諾が得られた医療機関を掲載したもの。(平成25年4月現在)

(広島県ホームページ「発達障害の診療を行っている医療機関リスト」から抜粋)

乳幼児健診事後指導及び保育所(園)・幼稚園における発達面の支援状況に関する調査

広島県地域保健対策協議会
「乳幼児健診後指導等あり方検討特別委員会」

1 回答者についてお伺いします。

- 回答者はどなたですか： 1. 園長 2. 保育士 3. その他 ()
- 保育所(園)の所在地は： () 市・町
- 保育所(園)の種類は： 1. 公立 2. 私立
- 平成24年7月1日現在の在籍乳幼児数及び発達面で「気になる子ども」の数：
*「気になる子ども」(例) ことばの遅れ、指示が入らない、一方的に話す、集団行動が困難、他人への関心が乏しい、こだわりが強い、激しいかんしゃく(パニック)、自傷や他傷、おとなしい、初めてのことに対しての不安が強い、落ち着きがなく多動、乱暴で衝動的、不注意、感覚過敏等(診断の有無は問わない)(※別紙「参考」も参照)

区分	0歳児がら	1歳児がら	2歳児がら	3歳児がら	4歳児がら	5歳児がら
在籍乳幼児数						
気になる子どもの数						

2 保育所(園)において「気になる子ども」に対する支援を行う際の、行政や療育機関などの関係機関との連携(関係機関に対し相談や情報提供、情報提供の依頼などを行ったもの)の状況についてお伺いします。

問1 平成23年4月～平成24年3月の間に、関係機関と連携して支援した子どもはいくらですか。

- 1. いる **問2へ**
- 2. いない **問5へ**

問2 関係機関と連携して支援を行った子どもは何人ですか。()人

問3 次のア～ケについて、連携の有無、連携内容について当てはまるものに○を付けてください。

- ア 市町・保健所の保健師
1. あり 2. なし
- 連携内容(複数回答可)**
1. 子どもへの関わり方についての相談 2. 保護者への支援についての相談
3. 子どもの園での様子についての情報提供 4. 子どもの発達状況についての見立て
5. 子どもの処遇についての相談 6. 診断や治療・療育についての相談
7. 福祉サービス利用についての相談 8. その他 ()
- イ 市町・家庭相談員
1. あり 2. なし
- 連携内容(複数回答可)**
1. 子どもへの関わり方についての相談 2. 保護者への支援についての相談
3. 子どもの園での様子についての情報提供 4. 子どもの発達状況についての見立て
5. 子どもの処遇についての相談 6. 診断や治療・療育についての相談
7. 福祉サービス利用についての相談 8. その他 ()
- ウ 市町・子育てセンター・児童館
1. あり 2. なし
- 連携内容(複数回答可)**
1. 子どもへの関わり方についての相談 2. 保護者への支援についての相談
3. 子どもの園での様子についての情報提供 4. 子どもの発達状況についての見立て
5. 子どもの処遇についての相談 6. 診断や治療・療育についての相談
7. 福祉サービス利用についての相談 8. その他 ()

- エ 発達障害者支援センター
1. あり 2. なし
- 連携内容(複数回答可)**
1. 子どもへの関わり方についての相談 2. 保護者への支援についての相談
3. 子どもの園での様子についての情報提供 4. 子どもの発達状況についての見立て
5. 子どもの処遇についての相談 6. 診断や治療・療育についての相談
7. 福祉サービス利用についての相談 8. その他 ()

- オ 専門療育機関
1. あり 2. なし
- 連携内容(複数回答可)**
1. 子どもへの関わり方についての相談 2. 保護者への支援についての相談
3. 子どもの園での様子についての情報提供 4. 子どもの発達状況についての見立て
5. 子どもの処遇についての相談 6. 診断や治療・療育についての相談
7. 福祉サービス利用についての相談 8. その他 ()

- カ 特別支援学校
1. あり 2. なし
- 連携内容(複数回答可)**
1. 子どもへの関わり方についての相談 2. 保護者への支援についての相談
3. 子どもの園での様子についての情報提供 4. 子どもの発達状況についての見立て
5. 子どもの処遇についての相談 6. 診断や治療・療育についての相談
7. 福祉サービス利用についての相談 8. その他 ()

- キ かかりつけ医
1. あり 2. なし
- 連携内容(複数回答可)**
1. 子どもへの関わり方についての相談 2. 保護者への支援についての相談
3. 子どもの園での様子についての情報提供 4. 子どもの発達状況についての見立て
5. 子どもの処遇についての相談 6. 診断や治療・療育についての相談
7. 福祉サービス利用についての相談 8. その他 ()

- ク 園 医
1. あり 2. なし
- 連携内容(複数回答可)**
1. 子どもへの関わり方についての相談 2. 保護者への支援についての相談
3. 子どもの園での様子についての情報提供 4. 子どもの発達状況についての見立て
5. 子どもの処遇についての相談 6. 診断や治療・療育についての相談
7. 福祉サービス利用についての相談 8. その他 ()

- ケ その他()
1. あり 2. なし
- 連携内容(複数回答可)**
1. 子どもへの関わり方についての相談 2. 保護者への支援についての相談
3. 子どもの園での様子についての情報提供 4. 子どもの発達状況についての見立て
5. 子どもの処遇についての相談 6. 診断や治療・療育についての相談
7. 福祉サービス利用についての相談 8. その他 ()

問4 どのような方法で連携をとりましたか。

1. 関係者による定期的な連絡会議
1. あり 2. なし
- 連携機関(複数回答可)**
1. 市町・保健所の保健師 2. 市町の家庭相談員 3. ことば家庭センター(児童相談所)
4. 発達障害者支援センター 5. 専門療育機関 6. 特別支援学校
7. かかりつけ医 8. 園医 9. その他(機関名)
2. 必要時の、個別のケース検討会議
1. あり 2. なし
- 連携機関(複数回答可)**
1. 市町・保健所の保健師 2. 市町の家庭相談員 3. ことば家庭センター(児童相談所)
4. 発達障害者支援センター 5. 専門療育機関 6. 特別支援学校
7. かかりつけ医 8. 園医 9. その他(機関名)

問10 どのようなことがあれば、関係機関との連携がしやすくなると思いますか。(複数回答可)

1. 定期的に、関係者の連絡会議を開催する
2. 必要時に、関係者による個別のケース検討会議を開催する
3. 連絡票を活用する
4. 各関係機関が共通認識を持てるよう、研修等により資質の向上を図る
5. 日頃から連絡・相談しやすい関係づくり
6. その他 ()

問11 「気になる子ども」を把握・支援するための保育所(園)での取組状況についてお伺いします。

保育所(園)ではどのようなことに取り組みでおられますか。	どちらかに回答		取組の有無に 関らず回答
	積極的に 取り組む	積極的でない	
1. 発達障害に関する保育所(園)内での研修会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 行政や関係団体が実施する発達障害に関する研修会への職員参加	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 専門的な研修を受けた職員(発達支援コーディネーター等)の配置	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 保育所(園)内の職員のみでのケース検討会議の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 外部の職員を交えての保育所(園)内でのケース検討会議の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 「気になる子ども」の支援について、お互いに相談しやすい職場環境づくり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 子どもの発達面の評価を定期的に実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. 発達障害の視点を取り入れた健康診断の実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. 専門療育機関等への子どもの処遇等についての指導・助言の要請	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. その他 ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問12 「気になる子ども」への対応について、どのような配慮・工夫を行っていますか。(複数回答可)

1. 個別支援計画を作成し、支援を実施
2. その子どもにも合った伝達方法の工夫(視覚的支援等)
3. その子どもにも合った教材・遊具の工夫
4. 保育室・教室の環境整備
5. 保育所(園)内での職員の子どもの間わり方の統一
6. 専門療育機関が実施している療育教室に同行、見学し、園での対応に生かす
7. 専門療育機関等の巡回相談で相談
8. 家庭での間わり方等についての保護者への助言
9. 就学相談につなげるための保護者への支援
10. 保護者同士の交流の機会を設ける
11. その他 ()

御協力ありがとうございました。

問5 巡回相談で相談

1. あり
2. なし

- ↓ 連携機関(複数回答可)
1. 市町・保健所の保健師
 2. 市町の家庭相談員(児童相談所)
 3. こども家庭センター(児童相談所)
 4. 発達障害者支援センター
 5. 専門療育機関
 6. 特別支援学校
 7. かかりつけ医
 8. 園医
 9. その他(機関名)
- 問6 随時、担当者間での連絡
1. あり
 2. なし
- ↓ 連携機関(複数回答可)
1. 市町・保健所の保健師
 2. 市町の家庭相談員(児童相談所)
 3. こども家庭センター(児童相談所)
 4. 発達障害者支援センター
 5. 専門療育機関
 6. 特別支援学校
 7. かかりつけ医
 8. 園医
 9. その他(機関名)

問7 就学に際して、教育委員会や小学校と連携していますか。

1. あり
2. なし

↓ 連携機関(複数回答可)

1. 市町・保健所の保健師
2. 市町の家庭相談員(児童相談所)
3. こども家庭センター(児童相談所)
4. 発達障害者支援センター
5. 専門療育機関
6. 特別支援学校
7. かかりつけ医
8. 園医
9. その他(機関名)

問8 問1で、「いない」と回答した方にお伺いします。
連携しなかったのはどのような理由ですか。

1. 「気になる子ども」がいなかったため
2. 保育所(園)内のみで支援ができたため
3. 気配に相談しにくいいため
4. どのようなことで連携したらよいかわからなかったため
5. 相談しても適切な助言がもらえなかったため
6. その他 ()

問9 就学に際して、教育委員会や小学校と連携していますか。

1. している
2. していない

問10 どのような方法で連携をしていますか。(複数回答可)

1. 保育所(園)・幼稚園・小学校連絡協議会での情報交換
2. 就学前に、小学校(教育委員会)が、子どもの様子を観察するために保育所(園)を訪問
3. 保護者の了解を得た上で、小学校(教育委員会)に保育所(園)での支援の記録を送付
4. その他 ()

問11 問6で「していない」と回答した方に伺います。

連携していないのはどのような理由ですか。(複数回答可)

1. 「気になる子ども」がいなかったため
2. 学校へ情報提供することが難しいため(具体的に:)
3. 就学前年齢の園児がいなかったため
4. どのように連携したらよいかわからなかったため
5. その他 ()

問12 「気になる子ども」への支援に関する関係機関との連携において、困難に感じていることがあれば、ご記入ください。

[]

乳幼児健診事後指導及び保育所（園）・幼稚園における発達面の支援状況に関する調査

広島県地域保健対策協議会
「乳幼児健診体制等改善方検討特別委員会」

1 回答者についてお伺いします。

- 回答者はどなたですか：
 - 1. 園長
 - 2. 幼稚園教諭
 - 3. その他（ ）
- 幼稚園の所在地は：
 - （ ）市・町
- 幼稚園の種別は：
 - 1. 公立・国立
 - 2. 私立
- 平成24年7月1日現在の在籍幼児数及び発達面で「気になる子ども」の数：

*「気になる子ども」：例) ことばの遅れ、指示が入らない、一方的に話す、集団行動が困難、他人への関心が乏しい、こだわりが強い、激しいかんしゃく（パニック）、自傷や他傷、おとなしい、初めてのことに對しての不安が強い、落ち着きがなく多動、乱暴で衝動的、不注意、感覚が過敏等（診断の有無は問わない）（※別紙「参照」も参照）

区分	3 歳児がス	4 歳児がス	5 歳児がス
在籍幼児数			
気になる子どもの数			

2 幼稚園において「気になる子ども」に対する支援を行う際の、行政や療育機関などの関係機関との連携（関係機関に対し相談や情報提供、情報提供の依頼などを行ったもの）の状況についてお伺いします。

問1 平成23年4月～平成24年3月の間に、関係機関と連携して支援した子どもはいくらいますか。

- 1. いる **問2へ**
- 2. いない **問5へ**

問2 関係機関と連携して支援を行った子どもは何人ですか。（ ）人

問3 次のア～ケについて、連携の有無、連携内容について当てはまるものに○を付けてください。

ア 市町・保健所の保健師

- 1. あり
- 2. なし

↓ 連携内容（複数回答可）

- 1. 子どもへの関わり方についての相談
- 2. 保護者への支援についての相談
- 3. 子どもの園での様子についての情報提供
- 4. 子どもの発達状況についての見立て
- 5. 子どもの処遇についての相談
- 6. 診断や治療・療育についての相談
- 7. 福祉サービス利用についての相談
- 8. その他（ ）

イ 市町の家庭相談員

- 1. あり
- 2. なし

↓ 連携内容（複数回答可）

- 1. 子どもへの関わり方についての相談
- 2. 保護者への支援についての相談
- 3. 子どもの園での様子についての情報提供
- 4. 子どもの発達状況についての見立て
- 5. 子どもの処遇についての相談
- 6. 診断や治療・療育についての相談
- 7. 福祉サービス利用についての相談
- 8. その他（ ）

ウ ことば支援センター（児童相談所）

- 1. あり
- 2. なし

↓ 連携内容（複数回答可）

- 1. 子どもへの関わり方についての相談
- 2. 保護者への支援についての相談
- 3. 子どもの園での様子についての情報提供
- 4. 子どもの発達状況についての見立て
- 5. 子どもの処遇についての相談
- 6. 診断や治療・療育についての相談
- 7. 福祉サービス利用についての相談
- 8. その他（ ）

エ 発達障害者支援センター

- 1. あり
- 2. なし

↓ 連携内容（複数回答可）

- 1. 子どもへの関わり方についての相談
- 2. 保護者への支援についての相談
- 3. 子どもの園での様子についての情報提供
- 4. 子どもの発達状況についての見立て
- 5. 子どもの処遇についての相談
- 6. 診断や治療・療育についての相談
- 7. 福祉サービス利用についての相談
- 8. その他（ ）

オ 専門療育機関

- 1. あり
- 2. なし

↓ 連携内容（複数回答可）

- 1. 子どもへの関わり方についての相談
- 2. 保護者への支援についての相談
- 3. 子どもの園での様子についての情報提供
- 4. 子どもの発達状況についての見立て
- 5. 子どもの処遇についての相談
- 6. 診断や治療・療育についての相談
- 7. 福祉サービス利用についての相談
- 8. その他（ ）

カ 特別支援学校

- 1. あり
- 2. なし

↓ 連携内容（複数回答可）

- 1. 子どもへの関わり方についての相談
- 2. 保護者への支援についての相談
- 3. 子どもの園での様子についての情報提供
- 4. 子どもの発達状況についての見立て
- 5. 子どもの処遇についての相談
- 6. 診断や治療・療育についての相談
- 7. 福祉サービス利用についての相談
- 8. その他（ ）

キ かかりつけ医

- 1. あり
- 2. なし

↓ 連携内容（複数回答可）

- 1. 子どもへの関わり方についての相談
- 2. 保護者への支援についての相談
- 3. 子どもの園での様子についての情報提供
- 4. 子どもの発達状況についての見立て
- 5. 子どもの処遇についての相談
- 6. 診断や治療・療育についての相談
- 7. 福祉サービス利用についての相談
- 8. その他（ ）

ク 園 医

- 1. あり
- 2. なし

↓ 連携内容（複数回答可）

- 1. 子どもへの関わり方についての相談
- 2. 保護者への支援についての相談
- 3. 子どもの園での様子についての情報提供
- 4. 子どもの発達状況についての見立て
- 5. 子どもの処遇についての相談
- 6. 診断や治療・療育についての相談
- 7. 福祉サービス利用についての相談
- 8. その他（ ）

ケ その他（機関名）

- 1. あり
- 2. なし

↓ 連携内容（複数回答可）

- 1. 子どもへの関わり方についての相談
- 2. 保護者への支援についての相談
- 3. 子どもの園での様子についての情報提供
- 4. 子どもの発達状況についての見立て
- 5. 子どもの処遇についての相談
- 6. 診断や治療・療育についての相談
- 7. 福祉サービス利用についての相談
- 8. その他（ ）

問4 どのような方法で連携をとりましたか。

1. 関係者による定期的な連絡会議

- 1. あり
- 2. なし

↓ 連携機関（複数回答可）

- 1. 市町・保健所の保健師
- 2. 市町の家庭相談員
- 3. ことば支援センター（児童相談所）
- 4. 発達障害者支援センター
- 5. 専門療育機関
- 6. 特別支援学校
- 7. かかりつけ医
- 8. 園医
- 9. その他（機関名）

2. 必要時の、個別のケース検討会議

- 1. あり
- 2. なし

↓ 連携機関（複数回答可）

- 1. 市町・保健所の保健師
- 2. 市町の家庭相談員
- 3. ことば支援センター（児童相談所）
- 4. 発達障害者支援センター
- 5. 専門療育機関
- 6. 特別支援学校
- 7. かかりつけ医
- 8. 園医
- 9. その他（機関名）

3. 巡回相談で相談
1. あり 2. なし
↓ 連携機関 (複数回答可)
1. 市町・保健所の保健師 2. 市町の家庭相談員 (児童相談所)
3. こども家庭センター (児童相談所)
4. 発達障害者支援センター 5. 専門療育機関
6. 特別支援学校
7. かかりつけ医 8. 園医 9. その他 (機関名)
4. 随時、担当者間での連絡
1. あり 2. なし
↓ 連携機関 (複数回答可)
1. 市町・保健所の保健師 2. 市町の家庭相談員 (児童相談所)
3. こども家庭センター (児童相談所)
4. 発達障害者支援センター 5. 専門療育機関
6. 特別支援学校
7. かかりつけ医 8. 園医 9. その他 (機関名)
5. その他 ()
1. あり 2. なし
↓ 連携機関 (複数回答可)
1. 市町・保健所の保健師 2. 市町の家庭相談員 (児童相談所)
3. こども家庭センター (児童相談所)
4. 発達障害者支援センター 5. 専門療育機関
6. 特別支援学校
7. かかりつけ医 8. 園医 9. その他 (機関名)

問5 問1で、「いない」と回答した方にお伺いします。
連携しなかったのはどのような理由ですか。(複数回答可)

- 「気になる子ども」がいなかったため
- 幼稚園内のみで支援ができたため
- 気懸に相談しにくいいため
- どのようなことで連携したらよいかわからなかったため
- 相談しても適切な助言がもらえなかったため
- その他 ()

問6 就学に際して、教育委員会や小学校と連携していますか。

- している → 問7へ
- していない → 問8へ

問7 どのような方法で連携をしていますか。(複数回答可)

- 保育所(園)・幼稚園・小学校連絡協議会での情報交換
- 就学前に、小学校(教育委員会)が、子どもの様子を観察するために幼稚園を訪問
- 保護者の了解を得た上で、小学校(教育委員会)に幼稚園での支援の記録を送付
- その他 ()

問8 問6で「していない」と回答した方にお伺いします。
連携していないのはどのような理由ですか。(複数回答可)

- 「気になる子ども」がいなかったため
- 学校へ情報提供することが難しいため(具体的に:)
- どのように連携したらよいかわからないため
- その他 ()

問9 「気になる子ども」への支援に関する関係機関との連携において、困難に感じていることがあれば、ご記入ください。

[]

問10 どのようなことがあれば、関係機関との連携がしやすくなると思いますか。(複数回答可)

- 定期的に、関係者の連絡会議を開催する
- 必要時に、関係者による個別のケース検討会議を開催する
- 連絡票を活用する
- 各関係機関が共通認識を持てるよう、研修等により資質の向上を図る
- 日頃から連絡・相談しやすい関係づくり
- その他 ()

問11 「気になる子ども」を把握・支援するための幼稚園での取組状況についてお伺いします。

幼稚園ではどのようなことに取り組んでおられますか。

取組の有無と必要と思うかどうかについて、☑を入れてください。

	どちらかに回答	取組の有無に関わらず回答
	取組む	必要と思う
1. 発達障害に関する幼稚園内での研修会の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 行政や関係団体が実施する発達障害に関する研修会への職員の参加	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 専門的な研修を受けた職員(特別支援教育コーディネーター等)の配置	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 幼稚園内の職員のみでのケース検討会議の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 外部の職員を交えての幼稚園内でのケース検討会議の開催	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 「気になる子ども」の支援について、お互いにご相談しやすい職場環境づくり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 子どもの発達面の評価を定期的ご実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. 発達障害の視点を取り入れた健康診断の実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. 専門療育機関等への子どもの処遇等についての指導・助言の要請	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. その他 ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問12 「気になる子ども」への対応について、どのような配慮・工夫を行っていますか。(複数回答可)

- 個別の指導計画を作成し、支援を実施
- その子どもにも合った伝達方法の工夫(視覚的支援等)
- その子どもにも合った教材・遊具の工夫
- 保育室・教室の環境整備
- 幼稚園内での職員の子どもの関わり方の統一
- 専門療育機関が実施している療育教室に同行、見学し、園での対応に生かす
- 専門療育機関等の巡回相談で相談
- 家庭での関わり方等についての保護者への助言
- 就学相談につなげるための保護者への支援
- 保護者同士の交流の機会を設ける
- その他 ()

御協力ありがとうございました。

乳幼児健診事後指導及び保育所(園)・幼稚園における子どもの発達面の支援状況に関する調査

広島県地域保健協議会
「乳幼児健診休開場かり方検討特別委員会」

1 回答者についてお伺いします。

- 費市・町名: () 市・町 ()
- 回答者の所属・連絡先: () (電話:)
- 回答者の職種: 1. 医師 2. 保健師 3. その他 () 人
- 管内の0~5歳児人口(H24.3月末現在) () 人
- 平成23年度の乳幼児健診(1歳6か月児・3歳児健康診査)受診状況

区分	対象者数(人)	受診者数(人)	発達面で事後指導となった子どもの数(人)
1歳6か月児健康診査			
3歳児健康診査			

2 上記の乳幼児健診(1歳6か月児・3歳児健康診査)において発達面で要事後指導となった子どもに対する支援を行う際の、保育所(園)・幼稚園や療育機関などの関係機関との連携(関係機関に対し相談や情報提供、情報提供の依頼などを行ったもの)の状況についてお伺いします。

問1 平成23年4月~平成24年3月の間に、乳幼児健診(1歳6か月児・3歳児健康診査)で要事後指導となった子どもについて、関係機関と連携して支援した子どもはいますか。

- 1. いる 問2へ
- 2. いない 問5へ

問2 関係機関と連携して支援を行った子どもは何人ですか。() 人

問3 次のア~コについて、連携の有無、連携内容について当てはまるものに○を付けてください。

- ア 保育所(園) 1. あり 2. なし
- ↓ 連携内容(複数回答可)
1. 子どもへの関わり方についての相談

2. 保護者への支援についての相談

3. 子どもの様子についての情報提供

4. 子どもの発達状況についての見立て

5. 子どもの処遇についての相談

6. 診断や治療・療育についての相談

7. 福祉サービス利用についての相談

8. その他()
- イ 幼 稚 園 1. あり 2. なし
- ↓ 連携内容(複数回答可)
1. 子どもへの関わり方についての相談

2. 保護者への支援についての相談

3. 子どもの様子についての情報提供

4. 子どもの発達状況についての見立て

5. 子どもの処遇についての相談

6. 診断や治療・療育についての相談

7. 福祉サービス利用についての相談

8. その他()
- ウ 市町の家庭相談員 1. あり 2. なし
- ↓ 連携内容(複数回答可)
1. 子どもへの関わり方についての相談

2. 保護者への支援についての相談

3. 子どもの様子についての情報提供

4. 子どもの発達状況についての見立て

5. 子どもの処遇についての相談

6. 診断や治療・療育についての相談

7. 福祉サービス利用についての相談

8. その他()

エ こども家庭センター(児童相談所)

- 1. あり 2. なし
- ↓ 連携内容(複数回答可)

1. 子どもへの関わり方についての相談

2. 保護者への支援についての相談

3. 子どもの様子についての情報提供

4. 子どもの発達状況についての見立て

5. 子どもの処遇についての相談

6. 診断や治療・療育についての相談

7. 福祉サービス利用についての相談

8. その他()

オ 発達障害者支援センター

- 1. あり 2. なし
- ↓ 連携内容(複数回答可)

1. 子どもへの関わり方についての相談

2. 保護者への支援についての相談

3. 子どもの様子についての情報提供

4. 子どもの発達状況についての見立て

5. 子どもの処遇についての相談

6. 診断や治療・療育についての相談

7. 福祉サービス利用についての相談

8. その他()

カ 専門療育機関

- 1. あり 2. なし
- ↓ 連携内容(複数回答可)

1. 子どもへの関わり方についての相談

2. 保護者への支援についての相談

3. 子どもの様子についての情報提供

4. 子どもの発達状況についての見立て

5. 子どもの処遇についての相談

6. 診断や治療・療育についての相談

7. 福祉サービス利用についての相談

8. その他()

キ 特別支援学校

- 1. あり 2. なし
- ↓ 連携内容(複数回答可)

1. 子どもへの関わり方についての相談

2. 保護者への支援についての相談

3. 子どもの様子についての情報提供

4. 子どもの発達状況についての見立て

5. 子どもの処遇についての相談

6. 診断や治療・療育についての相談

7. 福祉サービス利用についての相談

8. その他()

ク かかりつけ医

- 1. あり 2. なし
- ↓ 連携内容(複数回答可)

1. 子どもへの関わり方についての相談

2. 保護者への支援についての相談

3. 子どもの様子についての情報提供

4. 子どもの発達状況についての見立て

5. 子どもの処遇についての相談

6. 診断や治療・療育についての相談

7. 福祉サービス利用についての相談

8. その他()

ケ 園 医

- 1. あり 2. なし
- ↓ 連携内容(複数回答可)

1. 子どもへの関わり方についての相談

2. 保護者への支援についての相談

3. 子どもの様子についての情報提供

4. 子どもの発達状況についての見立て

5. 子どもの処遇についての相談

6. 診断や治療・療育についての相談

7. 福祉サービス利用についての相談

8. その他()

コ その他(機関名)

- 1. あり 2. なし
- ↓ 連携内容(複数回答可)

1. 子どもへの関わり方についての相談

2. 保護者への支援についての相談

3. 子どもの様子についての情報提供

4. 子どもの発達状況についての見立て

5. 子どもの処遇についての相談

6. 診断や治療・療育についての相談

7. 福祉サービス利用についての相談

8. その他()

問4 どのような方法で連携をとりましたか。

1. 関係者による定期的な連絡会議
 - 1. あり
 - 2. なし
 - ↓ 連携機関 (複数回答可)
 - 1. 保育所 (園)
 - 2. 幼稚園
 - 3. 市町の家庭相談員
 - 4. こども家庭センター (児童相談所)
 - 5. 発達障害者支援センター
 - 6. 専門療育機関
 - 7. 特別支援学校
 - 8. かかりつけ医
 - 9. 園医
 - 10. その他 (機関名)
2. 必要時の、個別のケース検討会議
 - 1. あり
 - 2. なし
 - ↓ 連携機関 (複数回答可)
 - 1. 保育所 (園)
 - 2. 幼稚園
 - 3. 市町の家庭相談員
 - 4. こども家庭センター (児童相談所)
 - 5. 発達障害者支援センター
 - 6. 専門療育機関
 - 7. 特別支援学校
 - 8. かかりつけ医
 - 9. 園医
 - 10. その他 (機関名)
3. 巡回相談で相談
 - 1. あり
 - 2. なし
 - ↓ 連携機関 (複数回答可)
 - 1. 保育所 (園)
 - 2. 幼稚園
 - 3. 市町の家庭相談員
 - 4. こども家庭センター (児童相談所)
 - 5. 発達障害者支援センター
 - 6. 専門療育機関
 - 7. 特別支援学校
 - 8. かかりつけ医
 - 9. 園医
 - 10. その他 (機関名)
4. 随時、担当者間での連絡
 - 1. あり
 - 2. なし
 - ↓ 連携機関 (複数回答可)
 - 1. 保育所 (園)
 - 2. 幼稚園
 - 3. 市町の家庭相談員
 - 4. こども家庭センター (児童相談所)
 - 5. 発達障害者支援センター
 - 6. 専門療育機関
 - 7. 特別支援学校
 - 8. かかりつけ医
 - 9. 園医
 - 10. その他 (機関名)
5. その他 ()
 - 1. あり
 - 2. なし
 - ↓ 連携機関 (複数回答可)
 - 1. 保育所 (園)
 - 2. 幼稚園
 - 3. 市町の家庭相談員
 - 4. こども家庭センター (児童相談所)
 - 5. 発達障害者支援センター
 - 6. 専門療育機関
 - 7. 特別支援学校
 - 8. かかりつけ医
 - 9. 園医
 - 10. その他 (機関名)

問5 問1で、「いいい」と回答した方にお伺いします。

連携しなかったのはどのような理由ですか。(複数回答可)

1. 発達面で支援が必要な子どもがいなかったため
2. 市町保健師及び担当課の専門相談で対応できたため
3. 気軽に相談しにくいため
4. どのようなことで連携したらよいか分からないため
5. 相談しても適切な助言がもらえなかったため
6. 保護者の同意が得られなかったため
7. 連携先窓口が明確でないため
8. その他 ()

問6 関係機関との連携において、困難に感じていることがあれば、ご記入ください。

問7 どのようなことがあれば、関係機関との連携がしやすくなると思いますか。(複数回答可)

1. 定期的な、関係者の連絡会議を開催する
2. 必要時に、個別のケース検討会議を開催する
3. 連絡票を活用する
4. 各関係機関が共通認識を持つよう、研修等により資質の向上を図る
5. 日頃から連絡・相談しやすい関係づくり
6. その他 ()

問8 3歳児健診以後に、発達面で支援が必要な子どもを把握するための健診や相談事業についてお伺いします。

問1 健診や相談事業を実施しておられますか。

- | | | | |
|-------------|--------|---------|-----------|
| ア 5歳児健診 | 1. 実施中 | 2. 実施予定 | 3. 実施予定なし |
| イ 5歳児発達相談 | 1. 実施中 | 2. 実施予定 | 3. 実施予定なし |
| ウ 就学時健診での工夫 | 1. 実施中 | 2. 実施予定 | 3. 実施予定なし |
| エ その他 () | 1. 実施中 | 2. 実施予定 | 3. 実施予定なし |
- ア〜エの中で1つでも
1又は2を選択した方
→ 問2へ

アについて、3を選択
した方
→ 問5へ

問2 事業の具体的な実施内容をご記入ください。(事業名、対象年齢、スタッフ、実施方法など)

(既存資料の添付でも可)

問3 問2で回答いただいた事業の実施状況等についてお伺いします。

【事業名:]

1. 平成23年度受診 (相談) 者数: () 人
2. 要事後指導者数: () 人
うち発達健診以前に乳幼児健診で要事後指導となった者の数: () 人 ・ 未把握
3. 事後指導の内訳
 - ・ 医療機関紹介: () 人
 - ・ 専門療育機関紹介: () 人
 - ・ 主に保健師の訪問による経過観察: () 人
 - ・ 主に事後指導教室 (遊びの教室等) での経過観察: () 人
 - ・ 主に保育所 (園) ・ 幼稚園で経過観察: () 人
 - ・ 担当課の専門相談: () 人
 - ・ その他 () :

問4 実施上の課題があれば、ご記入ください。

[]

問5 問1で、「ア 5歳児健診」について「実施予定なし」と回答した方にお伺いします。
実施予定がないのはどのような理由ですか。(複数回答可)

1. 財政的負担が大きいため
2. マンパワーが不足しているため(不足している職種:)
3. 既存の母子保健事業で支援ができていないため
4. 既存の乳幼児健診におけるスクリーニング体制の充実の方が重要性が高いため
5. 乳幼児健診スクリーニング後の支援体制の充実の方が重要性が高いため
6. 保育所(園)・幼稚園における支援体制の充実の方が重要性が高いため
7. 健診後の支援体制の整備が困難なのに、健診だけ行っても意味がないため
8. 就学時健診の充実の方が効率的・効果的のため
9. 5歳児発達相談の方が効率的・効果的のため
10. その他()

御協力ありがとうございました。

「気になる子ども」の具体的な例示

参考

「医師、患者に、会う」広島県地域保健対策協議会発達障害者支援特別委員会作成（平成18年3月）より抜粋

1歳前に気づかれること

- 運動発達の遅れ（ハイハイしないなど）
- 抱きにくい
- 感覚の異常（音に過敏、逆に大きな音に驚かない）
- あやしても笑わない、表情の動きが少ない
- 視線が合わない
- 名前を呼んでも振り向かない
- 人見知りをしない、もしくは異常すぎる人見知り
- 親の後追いをしない（お母さんの姿を目で追わない）
- おとなしい、あまり泣かない

1歳以降に気づかれること

- ことばの遅れ、出ていたことばの消失、オウム返しなど
- 指差しをしない、興味あるものを見せにこない
- 模倣をしない
- かんしゃくが激しい
- やりとり遊び、ごっこ遊びが成立しにくい
- 特定の動作、順序、遊び、物などに執着する
- 常同的な動作（てをひらひら、指を動かしてじっと見るなど）
- 落ち着きがなく、手を離すところへ行くかわからない
- 夜眠らず、睡眠時間が一定しない

集団の中で気づかれること

- 集団行動が取れない
- 友達とうまく遊べない
- 場の雰囲気を読み取れない
- 言葉の理解が悪く、指示が通りにくい
- 会話が一方的、平坦で奇妙な話し方、オウム返し
- 強いこだわりがある、興味が非常に限局している
- 落ち着きがなく、いつも注意されている
- 乱暴で、衝動的である
- 集中できない、不注意

4 か月児健康診査

【姿勢・運動】

- ・首はすわっていますか。
- ・あお向きから横向きに半分返りをしますか。
- ・身体が柔らかく、しっかりとしない感じがありますか。
- ・機嫌のよいときでも、抱き上げると反り返って抱きにくいことがよくあります。
- ・顔を片方ばかり向けていますか。
- ・うつ伏せなど特定の姿勢を極端に嫌がりますか。
- ・手足を左右とも動かしますか。
- ・いつも手を硬く握っていますか。

【感覚・こだわり】

- ・少しの物音や刺激にビクッとしやすいですか。
- ・身体に触れられることを嫌がりますか。
- ・哺乳びんの乳首をなかなか受け付けられないですか。(乳首以外のものを口にくぐらせると嫌がりますか)

【社会性・コミュニケーション・認知】

- ・ガラガラやメラメラランドを見ている人も、おどなが近づくと人のほうを見ますか。
- ・動くものを目で追いますか。
- ・視線が合いますか。
- ・あやす声を出して笑いますか。
- ・あやしても泣きやまないことが多いですか。
- ・赤やんの出す「アー」「ウー」などの声に応えると、さらに声を盛んに出したりしますか。
- ・すいぶんおとなしい赤やんだと感じますか。

3 歳児健康診査

【姿勢・運動】

- ・両足で前に跳ぶことができますか。
- ・三輪車などに乗って、ペダルを踏むことができますか。
- ・片足で、少しのあいだ(2～3秒)立っていることができますか。
- ・意味もなくつま先歩きをしたり、くるくる回ったり、びよんびよん跳ねたりすることはありますか。
- ・はさみで紙が切れますか。
- ・円(まる)を見て、書くことができますか。
- ・ボタンをはめることができますか。

【感覚・こだわり】

- ・ひどく落ち着きがないですか。
- ・多動で、手を離すとどこに行くかわからない(迷子になることがある)ことが多いですか。
- ・ものを投げたり、つきとばしたりしますか。
- ・非常に激しくかんしゃくをおこすことがありますか。
- ・保護者に仕理由がわからないが、急に泣いたり怒ったりすることが多いですか。
- ・かなきり声を出したり、ひっくり返ってだたをこねることが多いですか。
- ・ひどく泣き虫ですか。
- ・寝つきがわるく、目がさめやすいですか。
- ・普段どおりの状況や手順が急に変わると、混乱してかんしゃくを起しますか。
- ・思いと違ふともを言わなくなったり、固まってしまいうことがありますか。

1 歳 6 か月児健康診査

【姿勢・運動】

- ・上手に歩きますか。(転ばない、よろめかないなど)
- ・つま先歩きをしたり、くるくる回ったりすることはありますか。
- ・片手をひけば階段をのぼりますか。
- ・積み木を2つ3つ積み重ねますか。
- ・鉛筆などをもって、なぐり書きますか。
- ・スプーンを使って、なぐりで食べますか。

【感覚・こだわり】

- ・きらきら光るものにこだわりますか。
- ・おもちゃの自動車を走らせたり、人形を抱いたりしますか。
- ・ものを顔目で見たり、極度に目を近づけて見たりすることがありますか。
- ・かんが強く、くすぐることが多いです。
- ・体に触れられることを嫌がりますか。
- ・手が汚れたりぬれたら、耳ふさぎをしたりすることがあります。
- ・突然の音に不安になったり、耳ふさぎをしたりすることがあります。
- ・特定の音を嫌がりますか。
- ・普段どおりの状況や手順が急に変わると、混乱してかんしゃくを起しますか。
- ・身や身体の一部を同じパターンで動かし続けることがあります。(例：手をひらひらさせる。ぐるぐる回る。頭をこんこん打ち付けるなど)
- ・こだわりの癖がありますか。
- ・回っている扇風機のはねなど、くるくる回るものをじっと見ますか。
- ・おもちゃややんなどを並べ遊ぶ遊びに没頭しますか。
- ・偏食がひどく困ることがあります。
- ・落ち着きがなく、手を離すとどこにいかかわからないことがありますか。

【感覚・こだわり】

- ・ひどくこだわりで、おく病ですか。
- ・教えてもいないのに道路標識やマーク、文字、数字が大好きで、よく知っていますか。
- ・ビデオの特定場面を繰り返し見ている見えますか。
- ・同じ質問をしつこくしますか。
- ・初めての場所や慣れないところでは、ひどく緊張することがあります。(外ではしゃべらないなど)
- ・さきようめんできれいな好きすぎますか。
- ・食事の量がひどく少なかったり、種類が偏ったりしますか。
- ・特定のものを(毛布、ぬいぐるみ、バスタオルなど)に強い愛着をしますか。
- ・全身や身体の一部を同じパターンで動かし続けることがあります。(例：手をひらひらさせる。ぐるぐる回る。頭をこんこん打ちつけるなど)
- ・爪をかんんだり、ものをかじったり、おもちゃや口に入れる癖がありますか。
- ・回っている扇風機のはねなど、くるくる回るものをじっと見ますか。
- ・身体に触れられることを嫌がりますか。
- ・特定の音を嫌がりますか。
- ・痛みや熱さなどに鈍感であったり、逆に敏感ですか。
- ・目を顔目で見たり極度に目を近づけて見たりしますか。
- ・きらきら光るものにこだわりますか。

【社会性・コミュニケーション・認知】

- ・おとの子の身振りのまねをしますか。
- ・他の子どもを見るとき、近づいて顔をのぞくなど関心を示しますか。
- ・視線が合いますか。
- ・マイペースさが目立っていますか。
- ・ふれあい遊びを一緒に楽しめますか。
- ・ほめると喜びますか。
- ・最近、人見知りになりますか。
- ・最近、後追ひ(保護者の後を追ってついてくる)をしますか。
- ・見たいものを持ってきますか。
- ・絵本を見て、知っているものを指さして伝えますか。
- ・興味あるものを指さして伝えますか。
- ・おどなが指さすと指さした方を見ますか。
- ・簡単な言いつけが理解できますか。(「新聞を持ってきてちょうだい」等)
- ・名前を呼ぶと振り向きますか。
- ・意味ある言葉を使いますか。
- ・おしっこをした後(または前)に、知らせますか。

【社会性・コミュニケーション・認知】

- ・しっかりと目を見て話ができますか。
- ・相手が嫌がっていることに気づきますか。
- ・困ったときに助けを求めることができずか。
- ・友達と譲り合ったり、役割を持って(ままごとのお母さん役など)遊べますか。
- ・家の中の簡単なお手伝いができますか。
- ・自分で話しかけられますか。
- ・他人に話しかけられたとき、極端に恥ずかしがったり、保護者の後ろに隠れたりしますか。
- ・視線が合いますか。
- ・大きい・小さいの区別ができますか。
- ・男・女の区別がわかりますか。
- ・自分のものと他人のものとの区別して扱えますか。
- ・数個のものの中から「2つ取って」と言うと、取り出すことができますか。
- ・上・下・前・後ということが、少なくとも2つわかりますか。
- ・ことばでの指示が伝わりますか。
- ・ことばのやりとりが成立しますか。
- ・ほめると喜びますか。
- ・自分の姓と名前が言えますか。
- ・2語文で会話をしますか。
- ・人のことばを、そのままおもうむ返しに言うことが続きますか。
- ・ことばのつかえがありますか。

乳幼児健診事後指導及び保育所(園)・幼稚園における発達面の支援状況に関する調査結果

【保育所(園)・幼稚園】

1 属性

○回答者

区分	保育所(園)		幼稚園	
	園数	割合(%)	園数	割合(%)
園長・所長	325	71.9	94	48.0
保育士・幼稚園教諭	83	18.4	72	36.7
その他	29	6.4	23	11.7
無回答・無効回答	15	3.3	7	3.6
計	452	100.0	196	100.0

○園の種別

区分	保育所(園)		幼稚園	
	園数	割合(%)	園数	割合(%)
公立・国立	257	56.9	67	34.2
私立	190	42.0	127	64.8
無回答・無効回答	5	1.1	2	1.0
計	452	100.0	196	100.0

○平成 24 年 7 月 1 日現在の在籍乳幼児数及び発達面で気になる子どもの数

区分	保育所(園)			幼稚園		
	在籍乳幼児数	気になる子どもの数	気になる子どもの割合(%)	在籍幼児数	気になる子どもの数	気になる子どもの割合(%)
0歳児	2,227	174	7.8	—	—	—
1歳児	5,996	601	10.0	—	—	—
2歳児	7,168	979	13.7	—	—	—
3歳児	9,018	1,446	16.0	5,679	401	7.1
4歳児	9,212	1,537	16.7	7,251	507	7.0
5歳児	9,342	1,559	16.7	7,311	490	6.7
計	42,963	6,296	14.7	20,241	1,398	6.9

○園の規模別 気になる子どもの数

区分	保育所(園)(在籍園児数 2~344人)				幼稚園(在籍園児数 3~373人)			
	園数	在籍園児数	気になる子どもの数	気になる子どもの割合(%)	園数	在籍園児数	気になる子どもの数	気になる子どもの割合(%)
1~50人	126	3,932	817	20.8	58	1,464	208	14.2
51~100人	148	11,163	1,639	14.7	55	3,966	324	8.2
101~150人	91	11,435	1,665	14.6	25	3,086	260	8.4
151~200人	59	10,291	1,334	13.0	27	4,665	321	6.9
201以上	25	6,142	841	13.7	28	7,060	278	3.9
無回答	3	0	0	0.0	3	0	7	0.0
合計	452	42,963	6,296	14.7	196	20,241	1,398	6.9

2 「気になる子ども」に対する支援を行う際の、行政や療育機関などの関係機関との連携(関係機関に対し相談や情報提供、情報提供の依頼などを行ったもの)の状況

○平成 23 年 4 月~平成 24 年 3 月の間に、関係機関と連携して支援した子どもの有無

区分	保育所(園)		幼稚園		合計	
	園数	割合(%)	園数	割合(%)	園数	割合(%)
いる	406	89.8	145	74.0	551	85.0
いない	46	10.2	49	25.0	95	14.7
無回答・無効回答	0	0.0	2	1.0	2	0.3
計	452	100.0	196	100.0	648	100.0

○関係機関と連携して支援を行った子どもの数

区分	保育所(園)	幼稚園	合計
園数	406	145	551
人数(人)	2,218	519	2,737
平均支援人数(人)	5.46	3.57	4.97

○連携先

区分	連携有の園数	連携先																	
		ア 市町・保健所の保健師		イ 市町の家庭相談員		ウ こども家庭センター(児童相談所)		エ 発達障害者支援センター		オ 専門療育機関		カ 特別支援学校		キ かかりつけ医		ク 園医		ケ その他	
		有	割合(%)	有	割合(%)	有	割合(%)	有	割合(%)	有	割合(%)	有	割合(%)	有	割合(%)	有	割合(%)	有	割合(%)
保育所(園)	406	322	79.3	128	31.5	182	44.8	132	32.5	294	72.4	50	12.3	81	20.0	136	33.5	50	12.3
幼稚園	145	48	33.1	11	7.6	34	23.4	48	33.1	89	61.4	18	12.4	19	13.1	29	20.0	24	16.6

○連携先ごとの連携内容

保育所(園)								
連携内容	ア 市町・保健所の保健師	イ 市町の家庭相談員	ウ こども家庭センター(児童相談所)	エ 発達障害者支援センター	オ 専門療育機関	カ 特別支援学校	キ かかりつけ医	ク 園医
	(n=322)	(n=128)	(n=182)	(n=132)	(n=294)	(n=50)	(n=81)	(n=136)
子どもへの関わり方についての相談	○	○	○	◎	◎	○	○	△
保護者への支援についての相談	○	◎	◎	○	○	○	○	○
子どもの園での様子についての情報提供	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
子どもの発達状況についての見立て	◎	○	○	◎	◎	○	○	○
子どもの処遇についての相談	○	○	○	○	○	○	△	△
診断や治療・療育についての相談	○	△	○	○	◎	○	◎	○
福祉サービス利用についての相談	○	○	△	△	△	△	△	-

幼稚園								
連携内容	ア 市町・保健所の保健師	イ 市町の家庭相談員	ウ こども家庭センター(児童相談所)	エ 発達障害者支援センター	オ 専門療育機関	カ 特別支援学校	キ かかりつけ医	ク 園医
	(n=48)	(n=11)	(n=34)	(n=48)	(n=89)	(n=18)	(n=19)	(n=29)
子どもへの関わり方についての相談	○	○	○	◎	◎	◎	○	○
保護者への支援についての相談	○	◎	◎	○	○	◎	○	○
子どもの園での様子についての情報提供	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
子どもの発達状況についての見立て	◎	○	◎	○	◎	◎	○	○
子どもの処遇についての相談	△	○	○	○	○	○	○	△
診断や治療・療育についての相談	○	○	○	○	○	○	◎	○
福祉サービス利用についての相談	○	○	○	△	△	△	△	△

※ 連携先ごとに、どのような内容の連携を行ったかを示したもの。
 ※ 連携内容として多かったものから、50%以上を◎、10~49%を○、10%未満を△、0%を-で示している。

○連携方法

区分	保育所(園)		幼稚園	
	あり	なし	あり	なし
関係者による定期的な連絡会議	161 (39.7%)	245 (60.3%)	33 (22.8%)	112 (77.2%)
必要時の、個別のケース検討会議	237 (58.4%)	169 (41.6%)	84 (57.9%)	61 (42.1%)
巡回相談で相談	216 (53.2%)	190 (46.8%)	67 (46.2%)	78 (53.8%)
随時、担当者間での連絡	294 (72.4%)	112 (27.6%)	95 (65.5%)	50 (34.5%)
その他	25 (6.2%)	381 (93.8%)	8 (5.5%)	137 (94.5%)

○連携しなかった理由(複数回答可)

区分	保育所(園) (n=46)	幼稚園 (n=49)
「気になる子ども」がいなかったため	17	21
保育所(園)幼稚園内のみで支援ができたため	16	21
気軽に相談しにくい	1	4
どのようなことで連携したらよいかわからないため	1	1
相談しても適切な助言がもらえないため	1	1
その他	11	11

○就学に際しての教育委員会や小学校との連携

区分	保育所(園)		幼稚園		合計	
	園数	割合(%)	園数	割合(%)	園数	割合(%)
している	407	90.0	190	96.9	597	92.1
していない	28	6.2	3	1.5	31	4.8
無回答・無効回答	17	3.8	3	1.5	20	3.1
計	452	100.0	196	99.9	648	100.0

○教育委員会や小学校との連携方法

区分	保育所(園)		幼稚園		合計	
	園数	割合(%)	園数	割合(%)	園数	割合(%)
保育所(園)・幼稚園・小学校連絡協議会での情報交換	334	82.1	161	84.7	495	82.9
就学前に、小学校(教育委員会)が、子どもの様子を観察するために園を訪問	307	75.4	113	59.5	420	70.4
保護者の了解を得た上で、小学校(教育委員会)に園での支援の記録を送付	170	41.8	48	25.3	218	36.5
その他	41	10.1	11	5.8	52	8.7

○連携していない理由(複数回答可)

	保育所(園) (n=28)	幼稚園 (n=3)
「気になる子ども」がいなかったため	2	1
学校へ情報提供することが難しいため	0	1
就学前年齢の園児がいなかったため	18	
どのように連携したらよいかわからないため	1	0
その他	8	2

○気になる子どもへの支援に関する関係機関との連携において、困難に感じていること(自由記載)

園数(割合)	1 問題なし。良好な関係である。	2 専門機関の予約が取りにくい。相談の日程が合わない。	3 専門機関が近くにない。	4 保護者の理解や協力が得にくい。	5 関係機関との関係が希薄で相談しにくい。連携方法が分からない。	6 関係機関と、現に対する共通認識が持てにくい。相談しても適切な助言が得られない。	7 園の職員配置が少なく、十分なかかわりが難しい。	8 小学校との連携が難しい。	9 その他
648 (100.0%)	434 (67.0%)	44 (6.8%)	7 (1.1%)	102 (15.7%)	35 (5.4%)	43 (6.6%)	13 (2.0%)	11 (1.7%)	14 (2.2%)

※ 複数回答を含むため、1～9の各分類の園数の合計は、回答園数とは一致しない。

※ 割合(%)は、回答園数に対する割合を示している。

※ 自由記載欄に記入が無かった園については、「1 問題なし、良好な関係である」に分類した。

○どのようなことがあれば関係機関との連携がしやすくなるか(複数回答可)

区分	保育所(園)		幼稚園		合計	
	園数	割合(%)	園数	割合(%)	園数	割合(%)
定期的に、関係者の連絡会議を開催する	176	38.9	44	22.4	220	34.0
必要時に、関係者による個別のケース検討会議を開催する	212	46.9	70	35.7	282	43.5
連絡票を活用する	26	5.8	13	6.6	39	6.0
各関係機関が共通認識を持てるよう、研修等により資質の向上を図る	155	34.3	47	24.0	202	31.2
日頃から連絡・相談しやすい関係づくり	339	75.0	127	64.8	466	71.9
その他	12	2.7	8	4.1	20	3.1

3 「気になる子ども」を把握・支援するための園での取り組み状況

○気になる子どもを支援するために取り組んでいること

区分	保育所(園)		幼稚園		合計	
	園数	割合(%)	園数	割合(%)	園数	割合(%)
発達障害に関する園内での研修会の開催	344	76.1	120	61.2	464	71.6
行政や関係団体が実施する発達障害に関する研修会への職員の参加	432	95.6	162	82.7	594	91.7
専門的な研修を受けた職員(発達支援コーディネーター等)の配置	211	46.7	67	34.2	278	42.9
園内の職員のみでのケース検討会議の開催	388	85.8	145	74.0	533	82.3
外部の職員を交えての園内でのケース検討会議の開催	187	41.4	67	34.2	254	39.2
「気になる子ども」の支援についてお互いに相談しやすい職場環境づくり	404	89.4	178	90.8	582	89.8
子どもの発達面の評価を定期的実施	205	45.4	78	39.8	283	43.7
発達障害の視点を取り入れた健康診断の実施	46	10.2	11	5.6	57	8.8
専門療育機関への子どもの処遇等についての指導・助言の要請	277	61.3	100	51.0	377	58.2
その他	8	1.8	3	1.5	11	1.7

○取組が必要と思うかどうか(必要と思う)

区分	保育所(園)		幼稚園		合計	
	園数	割合(%)	園数	割合(%)	園数	割合(%)
発達障害に関する園内での研修会の開催	361	79.9	132	67.3	493	76.1
行政や関係団体が実施する発達障害に関する研修会への職員の参加	358	79.2	145	74.0	503	77.6
専門的な研修を受けた職員(発達支援コーディネーター等)の配置	337	74.6	106	54.1	443	68.4
園内の職員のみでのケース検討会議の開催	351	77.7	128	65.3	479	73.9
「気になる子ども」の支援についてお互いに相談しやすい職場環境づくり	275	60.8	92	46.9	367	56.6
子どもの発達面の評価を定期的実施	354	78.3	149	76.0	503	77.6
発達障害の視点を取り入れた健康診断の実施	308	68.1	103	52.6	411	63.4
専門療育機関への子どもの処遇等についての指導・助言の要請	256	56.6	70	35.7	326	50.3
その他	329	72.8	122	62.2	451	69.6

○気になる子どもへの対応について、どのような配慮・工夫を行っているか(複数回答可)

区分	保育所(園)		幼稚園		合計	
	園数	割合(%)	園数	割合(%)	園数	割合(%)
個別支援計画を作成し、支援を実施	255	56.4	94	48.0	349	53.9
その子どもに合った伝達方法の工夫(視覚的支援等)	374	82.7	142	72.4	516	79.6
その子どもに合った教材・遊具の工夫	272	60.2	79	40.3	351	54.2
保育室・教室の環境整備	314	69.5	95	48.5	409	63.1
保育所(園)・幼稚園内での職員の子どもの関わり方の統一	393	86.9	163	83.2	556	85.8
専門療育機関が実施している療育教室に同行、見学し、園での対応に生かす	240	53.1	78	39.8	318	49.1
専門療育機関等の巡回相談で相談	226	50.0	82	41.8	308	47.5
家庭での関わり方等についての保護者への助言	334	73.9	131	66.8	465	71.8
就学相談につなげるための保護者への支援	333	73.7	121	61.7	454	70.1
保護者同士の交流の機会を設ける	93	20.6	33	16.8	126	19.4
その他	17	3.8	7	3.6	24	3.7

乳幼児健診事後指導及び保育所(園)・幼稚園における発達面の支援状況に関する調査結果

【市町母子保健主管課】

1 属性

○回答者

区分	件数	割合(%)
医師	0	0
保健師	23	100.0
その他	0	0

○平成 23 年度の乳幼児健診(1歳6か月児・3歳児健康診査)受診状況

市町	0~5歳児人口 (H24.3月末現在)	1歳6か月児健診				3歳児健診			
		対象者数	受診者数	要事後指導人数	要事後指導割合(%)	対象者数	受診者数	要事後指導人数	要事後指導割合(%)
広島市	67,688	11,564	11,099	2,438	22.0	11,352	9,999	902	9.0
安芸高田市	1,306	181	170	31	18.2	226	191	33	17.3
府中町	2,946	475	462	69	14.9	487	443	33	7.4
海田町	1,760	304	289	87	30.1	293	249	45	18.1
熊野町	1,219	198	178	17	9.6	205	186	17	9.1
坂町	829	126	120	9	7.5	135	127	7	5.5
安芸太田町	204	31	30	0	0.0	31	27	0	0.0
北広島町	※1 829	126	118	35	29.7	135	130	38	29.2
大竹市	1,191	170	159	33	20.8	208	178	6	3.4
廿日市市	※2 5,795	1,152	898	267	28.4	1,170	806	242	30.0
呉市	10,771	1,861	1,796	450	25.1	1,862	1,754	360	20.5
江田島市	893	156	147	45	30.6	166	153	35	22.9
東広島市	10,980	1,882	1,802	281	15.6	1,908	1,783	228	12.8
竹原市	1,063	183	162	24	14.8	177	152	22	14.5
大崎上島町	210	31	26	0	0.0	39	31	1	3.2
三原市	4,681	800	729	443	60.8	873	723	236	32.6
尾道市	6,419	1,026	972	402	41.4	1,123	1,017	335	32.9
世羅町	676	116	112	51	45.5	125	109	53	48.6
福山市	26,721	4,529	4,212	1,045	24.8	4,445	4,016	766	19.1
府中市	1,750	265	259	76	29.3	315	295	41	13.9
神石高原町	316	48	48	29	60.4	65	64	47	73.4
三次市	2,797	476	393	157	39.9	492	398	137	34.4
庄原市	1,281	275	206	4	1.9	318	227	5	2.2
広島県	152,325	25,975	24,387	5,993	24.6	26,150	23,058	3,589	15.6

※1 北広島町については、平成 22 年国勢調査結果

※2 廿日市市については、平成 24 年 4 月 1 日現在

2 乳幼児健診(1歳6か月児・3歳児健康診査)において発達面で要事後指導となった子どもに対する支援を行う際の、保育所(園)・幼稚園や療育機関などの関係機関との連携(関係機関に対し相談や情報提供、情報提供の依頼などを行ったもの)の状況

○平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月の間に、乳幼児健診(1歳6か月児・3歳児健康診査)で要事後指導となった子どもについて、関係機関と連携して支援した子どもの有無

区分	市町数
いる	21
いない	2
計	23

○連携先

連携先	市町数
ア 保育所(園)	21
イ 幼稚園	16
ウ 市町の家庭相談員	12
エ こども家庭センター(児童相談所)	12
オ 発達障害者支援センター	4
カ 専門療育機関	20
キ 特別支援学校	4
ク かかりつけ医	13
コ 園医	2

○連携方法

連携方法	市町数
随時、担当者間での連絡	21
必要時の、個別のケース検討会議	18
巡回相談で相談	10
関係者による定期的な連絡会議	10
その他	1

○連携しなかった理由

- ・発達面で支援が必要な子どもがいなかったため(1)
- ・市町保健師及び担当課の専門相談で対応できたため(1)

○連携において、困難に感じていること(自由記載)

困難に感じていること	市町数
1 問題なし。良好な関係である	13
2 専門機関が近くにない、相談の日程が取りにくい。	3
3 保護者の理解や協力が得にくい。	5
4 関係機関との関係が希薄で相談しにくい。連携方法が分からない。	1
5 関係機関との共通認識が持ちにくい。相談しても適切な助言が得られない。	5

※ 複数回答を含むため、1～5の各項目の合計は市町数とは一致しない。

※ 自由記載欄に記入がなかった市町については、「1 問題なし、良好な関係である」に分類した。

○どのようなことがあれば関係機関との連携がしやすくなるか

区分	市町数
日頃から連絡・相談しやすい関係づくり	23
必要時に、関係者による個別のケース検討会議を開催する	17
各関係機関が共通認識を持てるよう、研修等により資質の向上を図る	16
定期的に関係者の連絡会議を開催する	9
連絡票を活用する	4

3 3歳児健診以後に、発達面で支援が必要な子どもを把握するための健診や相談事業について

○3 歳児健診以後に、発達面で支援が必要な子どもを把握するための健診や相談事業の実施状況

区分	実施市町数 (うち検討中)	内訳
5歳児健診を実施	0(0)	—
5歳児発達相談※1を実施	7(2)	広島市、江田島市、尾道市、神石高原町 海田町、(安芸高田市、庄原市)
その他※2	9	安芸太田町、北広島町、大竹市、呉市、江田島市、 竹原市、尾道市、神石高原町、三原市、世羅町

※1 4・5歳児を対象とした相談を、5歳児発達相談に分類した。

なお、「就学時健診における工夫」についても回答があったが、今回は母子保健主管課宛に調査票を送付したために把握が不十分であり、就学時健診については資料から除いている。

※2 4・5歳児に年齢を特定しない乳幼児の発達相談、5歳児発達記録、就学前調査、保育所との連携会

○5 歳児発達相談の実施状況

市町名	周知方法	申込先	実施形態	実施場所	従事者
広島市	保育所(園)、 幼稚園を通じて 案内	保健センター	個別相談 (希望者のみ)	保健センター	心理相談員 保健師 保育士
尾道市		保育所(園) 幼稚園			医師 保健師 心理士 発達支援嘱託員等 ※園の担任も同席する
神石高原町					保育所(園) 幼稚園
海田町	個別案内 (3歳児健診等で 発達面のフォロー を行っていた 4・5歳児)	保健センター	個別相談 (希望者のみ、 フォロー教室と併せて 実施)	保健センター	保健師 心理士
江田島市	個別案内 (対象となる5歳 児全員)	(申込不要)	集団で健康相談	保健センター	発達相談員 保健師 栄養士 歯科衛生士 母子保健推進員 事務

○5 歳児発達相談の利用者数、事後措置の状況

市町名	※ 対象者数 (人)	利用者数 (人)	対象者数 に対する 割合 (%)	事後措置の内容(人)							
				要事後 措置数 (人)	事後措置 割合 (%)	医療機関 紹介	専門療育 機関紹介	保健師に よる経過 観察	事後指導 教室での 経過観察	園での経 過観察	担当課の 専門相談
広島市	11,108	107	1.0%	48	44.9%	0	19	23	0	6	0
尾道市	1,091	87	8.0%	74	85.1%	3	18	19	0	0	34
神石高原町	64	19	29.7%	19	100.0%	0	0	0	4	15	0
海田町	84	13	15.5%	9	69.2%	0	2	0	3	1	3
江田島市	141	128	90.8%	54	42.2%	0	2	0	0	44	8

※対象者数

広島市：H24.3末現在5歳児人口、尾道市：H18.4.2～H19.4.1生まれ児童数

神石高原町：平成24年度小学校入学児童数、海田町：H23年度案内数、江田島市：H23年度通知数

○5歳児発達相談を実施する上での課題

- ・集団での様子が見られないため、適切な判断が難しい。
- ・問題意識の高い保護者しか利用しない。
- ・相談の結果、療育が必要と判断されても、療育機関の受け皿がない。
- ・保健センターと園・療育機関との連携は行っているが、園・療育機関と教育委員会及び学校の連携が取れておらず、就学後の支援につながっていない。
- ・個別相談にできるだけ園の担任が同席するようにしているが、その時間の確保が難しいと言われている。しかし、個別相談内容が日々の保育に活かせることが認識され始め、個別相談への同席について園の理解が得られてきたところである。
- ・保健センターで要支援と判断した児について、保育所でも支援を行っている実態があるにもかかわらず、保育士に「特に課題がある児」という認識がない。そのため、園から保護者に児の園での状況を伝えていない

ため、保護者の児に対する認識も低い状況である。

- ・対象児が参加しやすいよう、夏休みの時期に開催しているが、利用者が少ない。
- ・実施に関しては特に問題なし。5歳児発達相談で要事後指導となった児が小学校入学後、どのような経過をたどっているか、また就学後に問題が出てきた児童の5歳児発達相談時の状況がどうであったか等5歳児発達相談の効果の検証が必要である。

○5歳児健診について「実施予定なし」とした理由(複数回答可) (n=19)

理由	市町数	備考
マンパワーが不足しているため	13	不足しているスタッフ 医師(7市町)、心理職(5市町)、保健師(4市町)、看護師(2市町)
財政的負担が大きいため	10	
保育所(園)・幼稚園における支援体制の充実の方が重要が高いため	7	
乳幼児健診スクリーニング後の支援体制の充実の方が重要が高いため	5	
健診後の支援体制の整備が困難なのに、健診だけ行っても意味がないため	5	
既存の乳幼児健診におけるスクリーニング体制の充実の方が重要が高いため	4	
5歳児発達相談の方が効率的、効果的なため	3	
既存の母子保健事業で支援ができているため	1	
就学時健診の充実の方が、効率的、効果的なため	1	
その他	2	・精神発達面のフォロー体制について整理中 ・5歳児健診実施に向け準備を進めるも、各関係機関との連携が難しく、実施には至らなかった

広島県地域保健対策協議会 乳幼児健診体制等あり方検討特別委員会

委員長	小林 正夫	広島大学大学院医歯薬保健学研究院
委員	宇都宮千賀子	広島県西部こども家庭センター
	大澤 多美子	広島市こども療育センター
	岡本 奈緒美	三原市保健福祉課
	黒 飛 栄 治	広島県健康福祉局障害者支援課
	桑 原 正 雄	広島県医師会
	河 野 政 樹	広島県立障害者療育支援センターわかば療育園
	齊 藤 厚 子	広島県健康福祉局健康対策課
	豊 田 秀 三	広島県医師会
	西 村 浩 二	広島県発達障害者支援センター
	橋 場 聡 子	広島市こども未来局こども・家庭支援課
	檜 谷 義 美	広島県医師会
	樋 野 義 則	広島市こども未来局こども・家庭支援課
	福 島 崇	広島県教育委員会
	山 下 睦 子	広島県教育委員会
	山 手 和 恵	福山市立引野保育所
	湯 木 淳 子	海田町福祉保健部保健センター
	米 川 晃	学校法人青葉学園 青葉幼稚園
	渡 辺 弘 司	広島県医師会